

B—103 立体成形に必要な布地の性質の数値的表現の提案

—(その1)— 袖山いせこみへの適用

戸板女短大 香取智恵子

1. 調製作業上最も困難な袖付け作業において、今回いせこみ量を決める布地の性質をより客観的に数値化して把握し、その数値により図表から容易に適確ないせこみ量の決定を行なうことを目標とした。同時にここでふれる布地性質の数値的表現は、いせこみ量だけでなく洋

服全体の立体成形に際し、有効的な目安になることを提案する。

2. いせこみ量の大小は、折返し部の縫縮可能性で大部分が決定される。また布地の縮みうる方向は、経緯方向はほとんど加工困難で、糸目に対し 45° の方向すなわちバイヤスの方向のみに伸び、および縮みの加工可能性を有する。

これを数値化するため、長さ10cm幅2cmのバイヤスを布とり、これに適当な荷重をかけて引張り、そのときの長さ方向の伸び量と幅方向の縮み量を測定した。布地の厚み、手ざわりのいせこみ量に対する影響の数値化を行なうため、折り曲げ抵抗力を測定し、さらに丁寧にいせこみ量に反映させることとした。

3. 幅方向の縮み率で布地の性質を数値化し、その値といせこみ量との相関の極めて強いことを見出した。これに対し折り曲げ抵抗力の値によるわずかな補正が必要で、結果としての図表は、縮み率対いせこみ量の相関関係が折り曲げ抵抗力をパラメータとした複線の図表で、ほぼ完全に表現できることが明かとなった。現在まで公表されている厚さ伸長弾性度、防皺度等の数値との直接の相関は極少で、いせ量の目安とはならなかった。